



VR体験



避難所
体験

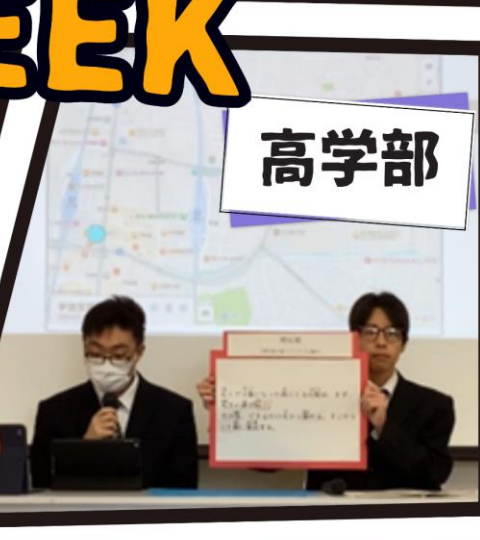
うじ防災WEEK



小学部



中学部



高学部



起震車
体験



意識から
行動へ

体験型教育活動を
中心とした
防災力の育成



避難所
給食体験



京都府立宇治支援学校

HPはこちら



VR体験スペースでは、ゴーグルを装着し、リアルな地震の様子を体感しました。地震が起きた際の身を守る行動「ダンゴムシのポーズ」を実践し、学びを深めました。この様子は教室の大型テレビで共有され、ゴーグルを装着していない生徒たちも一緒に映像を見て、防災学習を行いました。

VR体験

小学部

避難経路に沿って避難訓練を行い、非常口マークを探しながら防災知識と自分の身を守る力を身に付けています。地震時には机の下に隠れたり、火事時には口をハンカチで押さえる練習をしています。避難経路を何度も歩き、非常口マークをたどって避難する訓練や、防災バッグの作り方を学びました。また、給水車から水を汲む学習や、暗闇で過ごす体験も行いました。

希望者の児童生徒が実際の地震の揺れを体感しました。初めての体験に緊張しながら恐る恐る乗る子どももいましたが、いざ揺れが始まると、事前に学んだ通りに机の下に素早く入る姿も見られました。揺れの中でも真剣に取り組む子どもたちの姿が印象的で、自分の身を守る行動を実践する貴重な機会となりました。

起震車体験

生活単元学習「防災について知ろう」では、グループで地域の災害関連施設や関係者について調べ、防災知識や技能を身に付けています。校内の非常時の場所確認や災害時の生活体験を通じて、防災意識を高めています。また、地震や火事の避難方法を紹介する防災動画を作成し、全校に発信しました。

中学部

避難所体験では、段ボールベッドやパーテーション、簡易トイレ、ベッド等を設置し、避難所での生活を体験していました。体験した児童生徒からは、「ベッドが固い」「トイレはどこ？」等と普段使用しない道具に驚いている声も上がっており、それぞれの年齢や学びのテーマに応じて、避難所生活について考える時間を過ごしていました。

避難所体験

高等部

くらし職業コース1年生は、生活単元学習の授業で校内に発信するニュース動画を作成しました。グループごとにデジタルハザードマップやプログラミングアプリ「Scratch」を活用し、災害時にどんな危険があるのかを話し合ったり、どのような表現がわかりやすいのかを話し合ったりしながら、自分たちが学んだことを改めて整理し、防災への意識を深めました。

年に2回の避難訓練の日に防災給食が実施されています。体育館やプレイルームを活用し、希望するクラスは避難所生活を想定した環境で給食を食べます。高等部のくらし職業コース1年生は、ソーラーランタンを使い、ブルーシートの上で食事をするすることで、より現実に近い避難所の雰囲気体験しました。

避難所給食体験

お問い合わせや感想は
こちらから



本校では、知的障害と肢体不自由の児童生徒332名が在籍し、6歳から18歳までの子どもたちが学んでいます。今年度から6月と11月に「うじ防災WEEK」を実施し避難所体験や起震車体験、VR体験等を通じて防災意識を高めています。